

社会教育施設の自己紹介

【施設名】川村記念美術館

【施設概要】

川村記念美術館は、大日本インキ化学工業株式会社(2008年4月よりDIC株式会社)が関連グループ会社とともに収集した美術品を公開するため、1990年5月に千葉県佐倉市の総合研究所と隣接する場所に開館しました。20世紀美術を中心とした多彩なコレクション、展示作品にふさわしい空間づくりを目指した建築、四季折々の変化が楽しめる美しい自然環境。これら「作品」「建築」「自然」の三要素を調和させた美術館です。



里山の地形を生かした約3万坪の緑豊かな庭園内には、白鳥が遊ぶ池を中心に、林間を通る自然散策路と芝生の広場があり、季節ごとに桜、睡蓮、花菖蒲、山百合、大賀蓮などが花を咲かせます。散策途中で野鳥や昆虫の姿を見ることも珍しくありません。

この度、運営母体である大日本インキ化学工業(株)の創業100周年記念事業の一環として、美術館の増改築工事を進めてきましたが、約8ヶ月の休館期間を経て、3月15日にリニューアル・オープンしました。展示室の床面積が既存の約1.5倍に拡張され、より多くのコレクション作品をゆったりご覧いただけるようになります。



20世紀後半のアメリカ絵画を代表する二人の画家、マーク・ロスコ(1903-70)とバーネット・ニューマン(1905-70)。彼らの最重要作品を、それぞれの作品のためにデザインされた展示空間でご覧いただけます。

【特色ある取り組み】

■ 美術教育サポート

川村記念美術館では、小・中学校を主たる対象にした対話型の鑑賞教育プログラム「美術教育サポート」を1998年より行っています。このプログラムは美術史家のアメリカ・アレナスらが開発したメソッドに基づいており、特別展「なぜ、これがアートなの？」会期中に館内で試みられて以来、継続して実施されているものです。

絵画や彫刻をただ鑑賞するだけでなく、本物の作品の前でクラスの皆と自由に意見交換をすることにより、語り合う楽しみや、思いがけない発見、驚きがあります。当該プログラムの有用性について、多くの学校、先生方にご理解とご賛同をいただき、ここ数年間は毎年1500人以上の子供たちにご参加いただいています。参加校はこれまでで延べ130校、生徒数は1万人以上になります。



美術館 HP 教育サポートページ

<http://kawamura-museum.dic.co.jp/information/school.html>

■ 友の会

川村記念美術館友の会は、美術館を何度も訪れたいという方や、美術館の活動やイベントに積極的に参加したいという方のための集まりです。

友の会主催の美術講座や、美術教室（今年度は水彩画）、コンサート、国内外の美術館見学旅行などがあります。



会員期間中は入館が無料になるほか、収蔵品カタログ・展覧会図録の割引などさまざまな特典があります。

【今後の企画展】

DIC 創業 100 周年記念展

マティスとボナールー地中海の光の中へー

会期：2008 年 3 月 15 日(土)ー5 月 25 日(日)

20 世紀の巨匠と呼ばれ現代の美術にまで大きな影響を与えているふたりの画家、アンリ・マティス（1869-1954）とピエール・ボナール（1867-1947）を取り上げ、彼らの歩んだ軌跡と、色彩の輝きに溢れる絵画世界を国内外から出品される、約 120 点で紹介します。



ピエール・ボナール 《陽の当たるテラス》1939-46 年 個人蔵

川村記念美術館 HP <http://kawamura-museum.dic.co.jp/>